

113番元素の名前はニホニウム!

理

化学研究所仁科加速器研究センターの森田浩介グループディレクターらが発見した113番元素の名称案が、6月8日に国際純正・応用化学連合 (IUPAC) より発表されました。その名も「ニホニウム」(Nh) です。



記者会見で喜びを語る森田グループディレクター(右)と森本幸司チームリーダー。

翌日の記者会見で森田先生は、「日本で発見されたことがわかることにこだわり、日本語の国名にちなんだ名称になった。教科書に載る元素周期表に、アジアの一員である日本が発見したニホニウムの名前が刻まれる意義は大きい。日本の学生たちが科学を学ぶきっかけになれば」と語りました。KoKaからの「子供たちにメッセージを」という質問には、「興味を持ったことをとことん突き詰めてやってください」(森田先生)、「失敗を恐れず、失敗してもそれを糧にして根気よく取り組み、必ず思いはかかります」(森本先生)とそれぞれ答えていただきました。名称案は5か月間、一般の意見公募を行い問題がなければ、年内にも正式決定して元素周期表に載る予定です。(編集部)

ツタンカーメン王の短剣は隕石でつくられていた!

古 代エジプトのツタンカーメン王の墓にはさまざまな副葬品が納められており、これまで多くの考古学者の研究対象となってきましたが、ツタンカーメン王のミラのそばにあった鉄製の短剣が地球に落ちてきた隕石を材料にしてつくられたものであることが明らかになりました。

イタリアのミラノ工科大学、ピサ大学、カイロにあるエジプト考古学博物館などの研究者たちは、蛍光X線分析と呼ばれる技術を用いて、ツタンカーメン王の短剣を分析しました。その結果、短剣の主成分の鉄に加え、約10%のニッケル、約0.6%のコバルトを含むことが判明しました。過去に地球に落ちてきた隕石の成分と照合したところ、成分比率が非常に似た隕石が見つかり、短剣が隕石を材料につくられたと判断されました。

研究成果をまとめた論文には、装飾品や儀式用の道具をつくるのに隕石を集めていた可能性も触れられており、古代エジプトの人々は隕石の価値を十分に理解していたのではないかと考えられています。(斉藤勝司)



分析されたツタンカーメン王の短剣。(©Polytechnic University of Milan)